



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 令和7年度 認定認知症領域検査技師 日本認知症予防学会併設JSDP技師講座を開催

P2 大分県臨床検査技師会 「災害時の臨床検査技師の支援活動に関する協定」を締結

P3 都道府県技師会 各地での取り組み（新潟県編）

P4 全国「検査と健康展」2025/「血糖変動を見るタスク・シフト/シェアで広げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信中！

令和7年度 認定認知症領域検査技師 日本認知症予防学会併設JSDP技師講座を開催

令和7年9月14日（日）に都市センターホテルにて日本認知症予防学会に併設して、令和7年度認定認知症領域検査技師JSDP技師講座（資格更新のためのセミナー）が開催され、78名の参加がありました。

今回は「認知症の「いま」を知る：新薬と最新の治療や診断法、そして認知症を取り巻く社会的課題について学ぶ」をテーマとし、午前中には新規治療と検査、認知症基本法と自治体の対策に関する講義、午後にはMoCA-Jの実習が行われました。受講者からの感想をご紹介します。

受講者の声

板村 悦子（世田谷北部病院）

この度、令和7年9月12日～14日の3日間東京都で行われた第14回日本認知症予防学会学術集会の一講座として行われ、会場には検査技師以外の医師や看護師をはじめ認知症に携わる他職種の方々と賑わい、こんなにも同じ志を持った仲間がいるのだと心強く感じました。講演1として群馬大学院医学系研究科脳神経内科学教授 池田佳生先生の「アルツハイマー病に対する新規治療と検査の進歩」、講演2として日本医療政策機構シニアマネージャー 栗田駿一郎先生の「認知症基本法と自治体の認知症政策」、講演3として医療法人財団明理会鶴川サナトリウム病院 臨床心理室 稲垣和馬先生の「実習MoCA-J:心理検査を用いた認知機能アセスメントの基礎」の講義を受けました。

池田佳生先生の講義では基本となる我が国の認知症の社会背景の基礎から最新の検査治療に至るまでとてもわかりやすく講義いただきました。栗田先生には2019年に提出された旧法案の廃案から新たな法成立への取り組みの振り返りや認知症の人が尊厳を保ちつつ希望を持って暮らすことができる共生社会の推進のための行政介入。また、早期発見・診断・対応などは我々技師としての分野でありその使命感を感じました。稲垣先生の実習MoCA-J:心理検査では概要と結果解釈のポイントを経て実習に移り、実際にお互い検査を行ったあと、結果について多少の議論等もあり、判定は各々病院内での解釈基準を決めておくことが大事だと思いました。いずれにせよ、まだまだ早期発見のための医療受診率は低くスクリーニング検査の実施→地域医療機関→認知症疾患医療センターのそれぞれの役割がもっと身近になっていく努力をしていくことが大事だと思いました。



【会場の様子】

藤田 真帆（イムス明理会 仙台総合病院）

令和7年度認定認知症領域検査技師 日本認知症予防学会併設JSDP技師講座に参加させていただきました。講演1ではアルツハイマー病におけるバイオマーカーや新規治療に対しての講演でした。レカネマブの作用機序や投与時の有害事象など興味深い内容でした。講演2では認知症基本法と自治体の認知症政策に対しての講演でした。認知症基本法の内容や変更点、政治の流れなどをお話していただき勉強になりました。講演3ではMoca-Jの心理検査実習を行いました。Moca-JはHDS-RやMMSEとは異なりMCIを疑う人に使用する検査のため、Moca-J特有の検査内容があります。私は業務で心理検査を行っていないため最初は上手に説明し採点できるのか不安でした。実習を行う前に、結果解釈のポイントや点数の付け方など講師の先生が細かいところまでご教示していただいたためスムーズに検査を行うことができたと思います。受検者側になるとTrail Makingtestが難しいと感じました。実際に心理士の方からお聞きできたので勉強になりました。貴重なご講演ありがとうございました。

大分県臨床検査技師会

「災害時の臨床検査技師の支援活動に関する協定」を締結

大分県臨床検査技師会 副会長・災害担当理事 八尋 隆明

この度、大分県と大分県臨床検査技師会は、令和7年9月8日、大分県庁にて「災害時の臨床検査技師の支援活動に関する協定」を締結いたしました。技師会として県との災害協定締結は、長野県に続いて全国12例目となります。本協定は被災医療機関の診療支援や避難所・被災地域での保健医療活動を臨床検査技師が確実に担えるようにする取り決めであり、具体的には、大分県から要請を受け、病院検査室の機能維持のための人員派遣や機器・試薬等の提供、避難所でのDVT(深部静脈血栓症)検査等を支援する内容となっております。このような枠組みが締結されましたが、組織編成、連携強化、詳細なマニュアルの作成、派遣人材の把握と確保等やるべきことは山積です。しかし、自治体との協力体制や多職種との連携強化に向けてスタートラインに立てたことは大きな第一歩になったと確信しております。

ここで、災害協定締結に至るまでの経緯を時系列でご報告いたします。

令和5年12月：協定案を持参し大分県庁へ

好感触であったものの、その後、年度が変わるまで何の回答もなく時間だけが過ぎていった。

令和6年7月、10月、12月：大分県庁へ問い合わせ

「担当が変わった」「能登半島地震への対応があり遅れている」とのこと。その後、直ぐに検討に入りますとの返信があったが何も進まなかった。災害に対する認識に差があるのではないかと考えてしまう状況であった。この時点で最初の訪問から1年が経過した。

令和6年12月末：大分県庁へ2度目の訪問

訪問時、大分県側から大規模災害時における臨床検査技師の活動フロー案が提示され、自治体と技師会の役割についてのすり合わせを行うことができた。また、各様式(案)、協定細目(案)、協定(案)を再度確認するまでに至った。

令和7年2月：大分県からの依頼を受け、県内会員宛てアンケート調査を実施

「災害時に派遣可能な医療人材の状況」アンケート調査を実施した。

令和7年3月：大分県庁へ3度目の訪問（アンケート調査結果報告）

アンケート送付数：141施設、短い回答期限であったが24施設より回答を得た。アンケート調査結果として、派遣可能な①下肢エコー技師：20名、②弾性ストッキング着脱指導可能な技師：8名、③採血可能な技師：38名であったことを報告し、自治体と技師会の役割について説明した。



調印式の様子

令和7年4月：災害協定締結の予定であったが…

3月中に、4月の人事異動によりまた話が振り出しに戻らないようお願いしていたにも関わらず、4月に入ってから連絡が途絶え協定締結は延期となった。その後、当会側から数回にわたり連絡した結果、再度、調印式に向けてのやり取りが始まった。

令和7年8月：大分県より災害協定の式次第とプレスリリースの提案

大分県より災害協定の式次第(案)とプレスリリース(案)が提案され協定締結に向けて一気に話が進み始めた。県知事の都合により再度の日程変更があったものの、翌週には最終日程案が提示された。

令和7年9月8日：大分県庁にて調印式

大分県知事と大分県臨床検査技師会長による調印式が執り行われました。当日は3社のテレビ局、1社の新聞社、Yahooニュース、日本テレビニュース等によって報道され、多くの方に大分県との災害協定を知っていただける機会を提供することができました。また、災害に対するメディアの関心の高さを感じました。

臨床検査は、平時だけでなく災害時においても医療の“要”です。発熱や下痢など感染症が疑われる場面では迅速な検査が感染拡大を防ぎ、慢性疾患を抱える方には継続的なデータ把握が安心につながり、災害関連死の予防にもなります。今回の協定は、こうした専門性を地域に還元し、被災直後の急性期から慢性期まで、切れ目なく支える仕組みを整える必要があると考えます。

最後に、私たちは検査のプロとして、地域の医療を支える“最後の砦”の一部を担っております。今回の協定を力に、いつ起きてもおかしくない災害に備え、県民の命と健康を守る役割を、確実に果たしていきたいと思います。

都道府県技師会 各地での取り組み(新潟県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、新潟県長岡市が毎年開催している『すこやか・ともしびまつり』に新潟県技師会 中越支部が参加した様子を紹介いたします。

すこやか・ともしびまつり2025への参加

一般社団法人 新潟県臨床検査技師会
会長 桑原 喜久男



本事業はコロナ禍で3年間中止されましたが、平成10年よりから長岡市内の介護・障害福祉事業所の作品展やバザーが行われており、新潟県臨床検査技師会中越支部は平成10年より本事業に合計24年参画しています。中越地区の医療福祉に係る当会をはじめとして医師会、歯科医師会、看護協会をはじめ49の団体・サークルが参画しております。今年も9月13日、14日の2日間、延べ19名の会員が参加して、血管年齢測定・顕微鏡体験（はたらく細胞やがん細胞をみてみよう）・鼻咽頭検体採取体験を行い、2日間約790名が当支部ブースへ来場されました。

顕微鏡体験や人体モデルを用いた検体採取体験では特に小さな子ども達の興味を引くことができ、年齢を問わず臨床検査の疑問に対する説明をすることで理解を得られたと感じています。特にコロナ禍を経験し、上咽頭に綿棒を入れられ検査を受けられた方が多く、「これ痛いんだ!」や「何度もやられた!!」といった声を聞き、「今日はやられたことをやり返して!」と子どもたちはここぞとばかりに上咽頭まで綿棒を入れて敵を討っていました。血液像を顕微鏡で覗いてもらった際は映画『はたらく細胞』のおかげで細胞を見ながら「これは〇〇さんがやっていた白血球で細菌などの悪い奴をやっつける奴」「これは〇〇さんがやっていた赤血球、体の隅々に酸素を運んでくれる大切な細胞!」と映画の効果もあり、喜々としてモニターに

会場の様子



映る細胞像を見ていただけました。

日頃、健診や病院・クリニックなどで検査結果をもらうことはあっても、その結果を出しているのはどんな職業なのか、直接、臨床検査の疑問に対する説明をすることに加え、日臨技の職業紹介動画を見ていただくことで臨床検査技師という職業を理解してもらうことができたと感じています。若い会員が一般の方に臆することなく接し、一生懸命に説明している姿がとても印象的で頼もしく感じられました。

今後も『すこやか・ともしびまつり』への参画を続け、多くの市民に臨床検査技師の存在のPR、臨床検査の役割と検査データを生かした健康寿命延伸につながるよう願っております。

全国「検査と健康展」2025

日臨技では毎年11月の「臨床検査普及月間」にあわせて、一般の方々に臨床検査技師という職業を知っていただくため、さまざまな企画を盛り込んで国民参加型の全国「検査と健康展」を全国各都道府県で実施しています。今年は全国46都道府県で開催を予定しています。会員の皆様におかれましても、ご家族、ご友人、知人の方へお声掛けいただき、お近くの会場に是非、ご参加ください。

中央会場：神奈川県
横浜新都市プラザ・センタープラザ

日時 令和7年11月2日(日) 10:00～15:00

入場無料

様々なコーナーを準備してお待ちしております。



**近頃の会場に
行ってみよう!**

※中央会場以外にも各地で開催されています。

全国各会場の開催日程・会場は当会HPの特設ページでご確認ください。

<https://www.jamt.or.jp/kenken/>

YOKOHAMA JAPAN

日時 2025年11月2日(日)

時間 午前10時00分～午後3時00分

会場 新都市プラザ センタープラザ
横浜新都市ビル(そごう横浜店)
地下2階正面入口前

企画内容

～検査体験～
ゼン・プラザにて
顕微鏡観察体験・電子顕微鏡・血管造影機
認知症検査(テスト)・物忘れ健忘プログラムなど実施

～検査技術開発活動～
新都市プラザにて
写真撮影ソフト・検査結果報告DVDの上映など実施
認知症検査体験・検査技術開発講座

特別講演
13:00～14:00
講師:医師 山田 俊幸 先生
（元日本臨床検査専門医会 理事長
群馬大学医学部附属病院 検査科教授 副学長）

講演テーマ:「メタボ健診を上手に利用しよう」
会場:横浜新都市ビル9階ミーティングルーム

主 催 : 一般社団法人 日本臨床検査技師会
公益社団法人 神奈川県臨床検査技師会
共 催 : 一般社団法人 日本臨床検査専門医会
一般社団法人 日本臨床検査開発協会
後 援 : 厚生労働省 日本医師会 日本看護協会 日本病学会
全日本病院協会 日本臨床検査学会 日本臨床検査技師会
日本臨床検査実務協会 日本衛生検査協会

「血糖変動を見る タスク・シフト/バシエで拡げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信中!

テーマ：タスク・シフトによる糖尿病支援の進化 ～臨床検査技師の役割と新たな挑戦～

臨床検査技師が糖尿病管理における検査結果の活用法や患者支援の実践的な手法を習得するために、タスク・シフトの概念に基づいて医師や看護師など多職種と連携する方法や、CGMを含めた実践的な支援内容を学ぶ研修会をオンデマンド形式で開催中です。会員専用ページから事前参加申込をして、是非、ご参加ください。

会 期：令和7年7月1日(火)から10月31日(金)
申 込 期 間：令和7年6月1日(日)から10月30日(木)
受 講 料：1,000円(クレジット決済のみ)
点 数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

「(編集後記) 朝夕の風に秋の深まりを感じる頃となりました。公園の木々も少しずつ色づき始め、季節の移ろいが心を和ませてくれます。今号では、認定認知症領域検査技師JSDP技師講座の開催報告、大分県との災害協定締結、そして新潟県技師会による地域に根ざした取り組みをご紹介します。検査技師の専門性が、医療や地域社会のさまざまな場面で求められていることを改めて実感します。皆様の活動が、次の一步への力となることを願っております。」

(倉田)